

平成26年9月30日

自由民主党会派（和）

代表 古嶋 津義 様

八代市議会自由民主党会派 管外視察

復命書

視察期日 平成26年8月20日（水）～8月23日（土）

視 察 先 帯広市・札幌市・北見市

参加者名

団 長 古嶋 津義

上村 哲三

中村 和美



調査事項（帯広市）

○フードバレーとかちについて

1 事業の概要

地域を取り巻く環境は、○経済のグローバル化 ○アジア諸国の経済発展 ○少子高齢化社会の到来 ○地域主権の時代 ○震災による影響等があり、その様な中で帯広市では、『自らの意思と責任に基づいたまちづくりの推進』を根本とし、時代の変化を自ら創り出すことが必要と考え、十勝の強みである「農業・食」を中心に地域産業を振興しまちづくりを行うための旗印とした。

2 事業実績（事業取り組み内容）

推進の戦略

戦略1 オール十勝への合意づくり

とかち19市町村のきずなのかち（マーケットの大きさ・魅力の発信）を活かすため十勝管内自治体間の連携「十勝定住自立圏形成協定」（平成23年7月各々の議会で議決）

戦略2 取り組みの体制づくり

企業・農業者の取り込み方法、地域プラットフォームの形成の為、管内41団体が参加する推進組織「フードバレーとかち推進協議会」を設立（平成23年7月）

戦略3 取り組みの柱づくり

「フードバレーとかち」を推進するための基本的な方向性を整理する
為「フードバレーとかち推進プラン」・「フードバレーとかち戦略プラン」
を策定した。(平成24年3月)

戦略4 取り組みを効果的に進める環境づくり

国の規制緩和など、取り組みを進めるツールとして活用するため「国
際戦略総合特区」設けた(平成23年12月指定)

国の支援施策など、取り組みを進めるツールとして活用を為「バイオ
マス産業都市構想」の構築(平成25年6月認定) 同じく「地域活性化
モデルケース」(平成26年5月選定)を行った。

平成25年度の主な取り組み

- 十勝産品の販路拡大
- 東アジアを中心とした海外への展開支援
- 十勝産農畜産物・加工品の販路拡大
- スーパーと連携した地産地消の促進
- 広報活動・情報発信
- 「とかちのかち」キャンペーン等
- 十勝産食材を使ったレシピ集の作成
- 十勝人チャレンジ支援事業

等々詳細な内容は、資料を添付

3 市民からの評価

「フードバレー十勝構想」について、一般市民の中には未だ理解されていない部分もあるが、各方面で十勝の食に対する付加価値の向上に向けた取り組みが進められてきている。地場産加工食品の商品化・食品製造工場や配送センターの建設・十勝産加工食品の国内外への販路拡大に向けた設備投資等も活発化してきており、十勝の強みを活かした地域産業の振興によりさらに市民生活への波及もあると思われるので理解は深まるものと考ええる。

4 今後の課題

「フードバレーとまち構想」を促進するため、今後の展望として、農業を核とした「食・観光・健康」の成長産業モデル、十勝・帯広の基盤である食と農林漁業を柱とした成長戦略、オール十勝で「とちのかち」を創造すること。

① 農林漁業を成長産業にする

○ 食の安全安心 ○ 安全な農畜産物の生産 ○ 新品種・新技術の活用 ○ ICT農業 ○ 土地改良 等

② 食の価値を創出する

○ ブランド力の向上 ○ 食の付加価値向上 ○ 商品開発

○ 企業と生産者のマッチング ○ 成長資金の提供 等

③ 十勝の魅力を売り込む

○ 海外展開の人材育成 ○ 農業・特産品の魅力発信 ○ 観光
と食を世界に売り込む ○ 観光と食を首都圏に売り込む ○ 食
によるまちづくり交流 等

調査事項（札幌市）

○ 札幌マラソンについて

『開催趣旨』

札幌マラソン大会は、昭和 51 年に「健康都市さっぽろ」をスローガンに市民の健康・体力づくりを目的にスタートし、現在、市民が気軽に参加できるように、年代別クラスや親子ペア（現在はファンペアへ名称変更）などの種目設定を行い、昭和 62 年（第 12 回大会）からは、ハーフマラソンコースの一部が市内中心部を通過するようになり、益々注目を集めることとなりました。

また、平成 5 年（第 18 回大会）からは、ハーフマラソンと 10 km コースが日本陸上競技連盟の公認コースとなり、国内トップランナーの参加があるとともに、翌平成 6 年には市民マラソンとして日本一の人気を誇る「青梅マラソン大会」との姉妹大会の提携を結ぶなど、内容の充実・発展を続け、近年は、北日本最大の市民ハーフマラソン大会として、市民及び道民の健康づくりの向上に大きく寄与している中、第 38 回大会には、ハーフマラソンのコースを一部変更し、札幌のシンボルである大通公園外周を循環するコース設定となった。

1 大会実施に伴う運営形態

札幌市・札幌陸上競技協会・札幌市スポーツ推進委員会・読売新聞北海道支社・報知新聞社・さっぽろ健康スポーツ財団の6団体で組織する札幌マラソン大会実行委員会専門委員会により大会運営を実施している。

2 大会の特色及び効果

豊平川の河川敷や整然と立ち並ぶ都心部の街並みを駆け抜ける、まさに自然と都市が調和した札幌に相応しいコース設定となっている。

当該大会のメイン種目でもあるハーフマラソンや10kmは、日本陸上競技連盟公認コースであり、また、幼児から高齢者まで幅広い年代に応じた種目(5km・3km・2km)を設定し、誰もが参加できる大会として位置づけられている。

これらにより、日頃の練習成果を発揮する場の提供、体力・健康づくりに大きく寄与している。

3 市民からの評価

上記大会の特色から、札幌市民はもとより全国からランナーが集う北日本最大の市民ハーフマラソン大会として高い評価を得ている。

※エントリー数14,276名、内札幌市民11,164名(78、2%)

4 行政からの支援（運営に伴う関わり）

大会当日における運営スタッフの提供（15名）

大会運営補助金（第38回大会・17,960,000円）

5 今後の課題

当該マラソン大会は、公道を使用することから、交通規制を実施しなければならない。

長時間に及ぶため、札幌市民や道路を使用する全ての人の理解を得る必要があり、北海道警察をはじめ、関係機関との連携を密に図っていくことが課題となっている。

また、大会運営の収支決算は赤字となっており、赤字補てんは「さっぽろ健康スポーツ財団」が行っている。

札幌市の補助金の支出は、市民の健康増進が目的で、経済効果は求めているとの主旨である。

調査事項（北見市）

○ 共生型施設整備事業について

1 事業の概要

共生型施設は、「障がい者・高齢者・子ども」に対し、一体的にサービスを行う事業の拠点となるものであり、施設整備に対し3千万円を限度に、国の「地域介護・福祉空間整備等交付金」の対象となるものである。

また、事業立ち上げの初年度に必要な備品購入費等の経費に対し本年度は2百万円を限度に、同じく国の「地域介護・福祉空間推進交付金」交付されるものである。

〈対象経費〉

○ 施設の整備費（新築〈創設〉、改修、改築のいずれも可能）

地域介護・福祉空間整備等交付金（先進的事業支援特例交付金）

※交付額⇒施設1か所につき3,000万円を上限に厚生労働省が必要と認める額（いわゆる10/10の交付金事業であり、北海道や市町村の負担はゼロ）

○ 事業立ち上げの初年度に必要な施設整備等200万円（共生型サービス）・・・地域介護・福祉空間推進交付金

2 事業の特色

〈対象事業〉

「障がい者・高齢者・子ども」に対し、一体的にサービス等を行う事業の拠点に関する施設整備であり、障がい者のみのサービスは対象とならない。必ず高齢者（障がい者を含む）を対象としているのであれば、併せて、子どもなどを対象とするサービスを実施することも可能である。

〈対象事業者〉

NPO法人・有限会社・株式会社等（社会福祉法人対象ではない）

3 事業に対する市民からの評価

共生型施設は、先進的事業であり、「障がい者・高齢者・子ども」に対し、一体的にサービスを行う事業の拠点、という意味と、様々な取り組みの組み合わせの妙について理解得難いものがあるようだ。

4 今後の課題

国の「地域介護・福祉空間整備等交付金」及び「地域介護・福祉空間推進交付金」は、あくまで、事業立ち上げ初年度に必要な施設整備と備品購入等の補助であることから、団体の運営の継続性等についての不安がある。

事業者の運営について地元自治体が介入できない。（事業者に報告義務はなく、自治体の監査権限もない）

調査事項（北見市）

○ 武道館建設事業について

1 武道館建設に至るまでの経緯

北見市では、以前より武道が盛んで、8種の団体（柔道・合気道・剣道・少林寺拳法・空手・居合道・弓道・相撲）により武道発表会が開催（年1回）され、その折、武道館建設のための募金活動を自ら行い、この度、武道館建設の陳情を行う際に之を市に寄付した。

武道は、相手を尊重する友愛の心を基本とし、心身の鍛錬を通じて、次代を担う青少年の健全育成や自己の人格形成を培う心と技を伝承する日本古来の伝統文化を広く後世に継承する施設・体育・スポーツ並びに生涯学習機能を有する社会教育拠点施設と位置付け、平成25年10月19日、市内初の総合武道施設として北見市武道館を開館した。

2 武道館の特色

- 建設地については、東陵公園自由広場空間に配慮
- 各道場の独立性に配慮して、稽古に集中して励むことができる機能を重視した
- 「武道の広場」武道に触れる機会の提供と市民交流の場を設置
- 利用者の安全、不測の事態に対応するため、救護室及び救急動線を確保

- 研修室を設置し日本古来の伝統文化修養の場を設置
- 太陽光発電設備・木質ペレットストーブ・自然光の採光 等を取り入れた

3 市民からの評価

立地条件が J R 北見駅から北に 2 km 程の緑豊かな東陵公園のほぼ中央に位置する自由広場内で、公道に近接しない静かで落ち着いた雰囲気のある敷地にあり、東陵公園は都市空間における憩いや癒しの機能を有する都市公園として、また、スポーツを楽しむ、交流できる環境づくりを進める総合運動公園として、市民の皆様に広く利用されており、武道館も、武道のみならず東陵公園を訪れる市民の方々が気軽に利用できる開かれた施設として概ね好評である。

4 建設概要

名 称：北見市武道館

建設場所：北見市東陵町 2 7 番地 1

用途地域：第 2 種中高層住居専用地域

敷地面積：9, 4 4 2. 1 4 m² (申請面積)

建物概要：構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

建築面積 3, 3 1 7. 0 1 m²

延床面積 3, 3 4 7. 8 7 m²

〈事業費〉

歳出（予算ベース）・・・ 1, 226, 904千円

建設工事費　・・・ 1, 137, 348千円

調査・設計及び管理費　・ 60, 435千円

備品等購入費　・・・ 26, 000千円

事務費　・・・ 3, 121千円

〈財源〉（予算ベース）　1, 226, 904千円

国庫交付金（学校施設環境改善交付金・合併市町村補助金）

113, 700千円

地方債（合併特例債）　1, 080, 900千円

基金繰入金（体育・スポーツ振興基金）4, 700千円

一般財源　27, 604千円

5 施設概要

道場構成：道場1　232 畳　柔道国際規格（柔道・合気道）

道場2　579.75 m²（剣道・少林寺拳法）

道場3　179.97 m²（空手・居合道）

多目的道場　88.88 m²（相撲等）

弓道場　近的10人立

エントランス：武道の広場　335.46 m²（道場1・2・弓道場観覧）

その他：研修室 77.14 m²（音響・P J 常設・60 人収容）

トレーニングルーム・・・・・・51.89 m²

救護室・・・・・・・・・・・・10.25 m²

授乳室・・・・・・・・・・・・4.60 m²

シャワーブース 男子用 3 室・女子用 2 室

議員名【 古嶋津義 】

◆視察日：平成26年8月20日（水）

◆視察先：北海道帯広市

◆調査項目：フードバレーとかちについて

「フードバレーとかち」食や農林漁業を柱として、「食、観光、健康」をテーマに事業展開している。取り組みとしては、首都圏等の有名ホテル、飲食店、関西圏飲食店等との連携により十勝産食材でのフェアの開催やシンガポール市場など、東アジアを中心とした海外への展開。（販路拡大）
又、地元スーパー7社と連携し、地元産品に「フードバレーとかち」のロゴマークの表示。広報活動や情報発信として、JR山手線を貸し切って中吊り広告の掲示。ANA機内の機内誌やビデオで、食と観光をPR、機内食（十勝産食材使用）の提供等。又、管内有名シェフの協力で、十勝産食材を使ったレシピ集を作成し販路、消費拡大のツールとして活用。課題としては、企業と連携した新規作物導入の研究や、長いも、道産牛肉の海外輸出に向けた取り組み等。弱点である原材料とかちの比率の低さ、今後地域での加工により、高付加価値化の実現が課題

◆視 察 日：平成26年8月21日（木）

◆視 察 先：北海道札幌市

◆調査項目：札幌マラソンについて

札幌マラソン大会は、札幌市、札幌陸協、札幌市スポーツ推進委員会、読売新聞北海道支社、報知新聞社、さっぽろ健康スポーツ財団で構成される実行委員会で運営。事務局は札幌市体育協会より、分離独立したさっぽろ健康スポーツ財団。大会は幼児から高齢者まで幅広い年代に応じた種目を設定。マイルのハーフマラソンや10Kは、日本陸連公認コースで、箱根駅伝等で活躍した選手が招待されている。コースは豊平川の河川敷や、札幌のシンボルである大通公園を駆け抜ける、自然と都市が調和したコース設定となっている。北日本最大の市民ハーフマラソン大会として、(エントリー数14,276名、内、札幌市民11,164名 78.2%) 市民から高い評価が得られている。行政からの支援は市補助金 17,960,000円、人的支援として運営スタッフ15名の支援。今後の課題としては、マラソン大会は公道を使用することから、交通規制が長時間に及ぶため、市民や道路利用者の理解が必要。警察への道路使用許可願いの初め、救護救急体制など、関係機関と連携を図っていくことが課題。

- ◆視察日：平成26年8月22日（金）
- ◆視察先：北海道北見市
- ◆調査項目：共生型施設整備事業について

共生型施設は「障がい者、高齢者、子ども」に
対し、一体的にサービスを行う事業の拠点として
施設整備（先進的事業支援特例交付金事業）が
なされている。特色としては「障がい者、高齢者、子ども」に
対し一体的にサービス等を行う事業に関する施設
整備であり、必ず高齢者に関するサービスを一体的に
行うことが必要で、高齢者を対象としているのであれば、
併せて、子どもなどを対象とするサービスを実施することも
可能である。市民からは福祉サービスの提供や
生活全般にわたる支援等、地域で支え合う体制の
事業として、歓迎されている。課題としては、高齢者、
障がい者、母子家庭の就労支援の場としての、コミュニティ
店舗などの運営が厳しい状況であり、改善への
工夫がこれからの課題である。

◆視 察 日：平成26年8月22日（金）

◆視 察 先：北海道北見市

◆調査項目：武道館建設事業について

建設に当っては、武道関係団体により構成される、北見市武道館道振興協議会からの専門的見地による提言や、プロポーザル選定委員会における技術提案等の意見を反映させ、平成25年10月に開館。事業費1,226,904千円。財源内訳は、合併特例債と国庫交付金で、一般財源は27,604千円。施設の特色は稽古に集中して励むことができる機能（各道場の独立性）武道に触れる機会のある場として武道の広場の設置。利用者の安全に配慮した救護室の設置。伝統文化修養の場として研修室の設置。ウェイトトレーニング室の設置等があげられる。武道館のある東陵公園内には、陸上競技場、野球場、テニスコート、球技場、体育館、温水プールや東立体育センターもあり、駐車場も広く、バス停もあり、利便性が高く市民からの評価も好評。ただ、施設利用料が当初の予測より低く、指定管理者の北見市武道振興協会による、スポーツ各宿等の誘致活動等が今後の課題である。

会派 自由民主党（礎・絆・和） 行政視察所見

議員名【中村 和美】

◆視察日：平成26年8月20日（水）

◆視察先：北海道帯広市

◆調査項目：フードバレーとかちについて

十勝の強みである「農業、食」を中心に、近隣
19市町村が、定住自立圏形成協定（行政區は
違いが、一つの事を一緒に行動する。）を、H23年
7月に、議決決定。この地域は、小麦、馬鈴薯、
大豆等の生産が、全北海道の約半分の生産量
を持っているが、加工が弱い為に、食の価値
が低かった。そこで、加工により、高付加価値を
実現。日本ばかりか、東アジアを中心とした
海外展開を計画、年々、実績を作っている。
一つは、フードバレーとかちの組織として、
農林団体、商工、大学等研究機関、金融機関、
行政が、一緒に行動している強みがあり、
八代も連系を密にある事だと思う。

◆視 察 日：平成26年8月21日（木）

◆視 察 先：北海道札幌市

◆調査項目：札幌マラソンについて

健康都市さっぽろをスローガンに、昭和51年
に札幌マラソンとしてスタート。現在、札幌市や
陸上協会、マス社の新聞社等、六団体により
構成、歴史のある大会であるが、外国選手や
他県からの参加は少ない。種目は、①ハーフ
マラソン ②10KMコース ③3KMコース等
成人から、小学低学年迄、幅広く参加
出来る。市民の参加は年々増えているとの事
行政も当日は、15名の職員と、1,796万円の
補助金を支出して、支援しているとの事。
交通安全対策では、ガードマン(400名) 警察官
(120名)、陸上関係者(300人) ^{その他} 合計、1000人へ
1200名である。八代地区も、駅伝大会は
あるが、広域(永川町)において、マラソンを
計画するのも、一つの活性化策ではなかろうか。

- ◆視 察 日：平成26年8月22日（金）
- ◆視 察 先：北海道北見市
- ◆調査項目：共生型施設整備事業について

障がい者、高齢者、子供が利用する
施設整備に国・交付金（地域介護、福祉
空間整備等）に3,000万円を限度に交付。
この制度は、単一での整備は出来なくて、
必ず、高齢者に関するサービスと一体化して
いなくてはならないものだと、事、高齢者優先
の施策である。北見市では、ハレ所の施設
が交付を受けて、施設整備を行っているとの
事。ただ、経営がうまくいっているのか、又、
事業内容等の検査に市が関与出来ないとの
事と同様の施設も市内にたくさんあるので
施設を増やす必要があるのか、が
今後の課題との事。高齢者を大切にする
事はいい事であるが、他の^{他人}施設との調和
が必要であると思う。

◆視 察 日：平成26年8月22日（金）

◆視 察 先：北海道北見市

◆調査項目：武道館建設事業について

（運動）

北見市内の東陵公園の中に武道館が
建設されていた。敷地面積 約 7000m²
建築面積 約 200m²の中に柔道場 2面（合気道含）
剣道場^{（2面少林寺拳法含む）}、トレーニングルーム等、立派
な武道館が出来ていた。武道館の管理は
指定管理会社に依頼。武道は中々、市民
には、感心が低い為、この武道館では他の
スポーツ施設を利用する市民になるべく、知って
もらいたいとの事で、入り口を2ヶ所設置している。
又、練習場所が、柔、剣道、一諸の武道館
が普通であるが、ここでは、別部屋になっていた。
八代市でも、これから、武道館建設計
画が進む訳だが、北見市のような場所や
施設を早く完成させなくては、子供達の
武道離れに、脅々になると心配する。

議員名【エ 村 哲 三】

- ◆視 察 日：平成26年8月20日（水）
- ◆視 察 先：北海道帯広市
- ◆調査項目：フードバレーとかちについて

帯広市が中心となっている「フードバレーとかち」戦略は、そのマーケットの大きさや、魅力の発信を最大限に活用し、十勝地域全体を取り込んだ「十勝定住自立圏形成協定」というよくリンクさせている点で最大の効果をもたらしている要因と思われる。

本市における「フードバレー構想および戦略」は、先に大きいエリアで、熊本県のフードバレー構想のうちの県南フードバレーの構想であり、その核が本市であることから、十勝（帯広市中心）の作りとは弱感異なっている。定住自立圏協定エリアも、その地勢から範囲は

議員名【 】

- ◆視察日：平成26年8月20日（水）
- ◆視察先：北海道帯広市
- ◆調査項目：フードバレーとかちについて

限定されている。

しかしながら、来年、本市鏡町に開設される、県の「アグリビジネスセンター」を中心に展開される、「県内フードバレー」創定においては、本市がその核となり、事業の取り組み（戦略各の組み合わせ・プランづくり・環境づくり・国際戦略等）については「フードバレーとかち」に学ぶ、点が大変多い様に思う。

◆視 察 日：平成26年8月21日（木）

◆視 察 先：北海道札幌市

◆調査項目：札幌マラソンについて

札幌マラソン大会は市民の健康・体カ
づくりを目的に、昭和51年にスタート
し現在に至っている。その為、なるべく
多くの市民が気軽に参加できる様に
種目設定を行ったり、市の文化にも
ふれられる様なコース設定もしたりして
また進化している。フルマラソンにおいては
「北海道マラソン」がある為、本大会は
ハーフマラソンを日本陸連の公認・エトリ
国内トップランナーの参加をうながして
北日本最大の市民マラソンとなっている。
本市の市民の体カづくりの大会は、「市民
体育祭」、「校と民体育祭」、「校と対抗駅伝
大会」等が行なわれているが、誰も
か気軽に参加できているのは、「九廿国際

◆視 察 日：平成26年8月21日（木）

◆視 察 先：北海道札幌市

◆調査項目：札幌マラソンについて

スリーデーレース」が一番であろう。

過去においては、「ひなまつり馬伝」等もあり、女性のみの大会ではあったが好評であった様に思う。

一般道路を使用する際は、交通規制等の問題もあり大変だろうとは思いますが、今後は、市民の健康、体カづくりを目的とした新型の取り組みの必要性を強く感じる。

- ◆視 察 日：平成26年8月22日（金）
- ◆視 察 先：北海道北見市
- ◆調査項目：共生型施設整備事業について

今回、研修した「共生型施設整備事業」
については、国の介護・福祉に関わる
補助金対象事業であった。

「障がい者・高齢者・子供」に対し、一体
的にサービス等を行う事業の拡充に関
する施設整備への補助金制度の
主旨は理解できるものの、施設整備の
規模、組み合わせの複雑さ、補助が初期
投資のみである事等々から生まれる、経営
の維持、継続性等に疑問が湧いて
多く見られた。

これは、国のパイロット事業、白子意味合い
が強いのではないかと感じる。

整備計画において、各自治体では
「市町村介護保険事業、及び北海道庁

- ◆視察日：平成26年8月22日（金）
- ◆視察先：北海道北見市
- ◆調査項目：共生型施設整備事業について

「導介護保険事業計画」と調和が保たれている事が必要となってくるから、維持経営については、各自治体の関与が及ばにくい（監査権限がない。報告義務がない）のは如何だがものかと思え、将来的な実効性は望めないと判断する。

北見市にも8例の整備実態があるから、今後を注視していきたい。

◆視 察 日：平成26年8月22日（金）

◆視 察 先：北海道北見市

◆調査項目：武道館建設事業について

北見市は「スポーツ合宿の里、さみみ」として
1年を通じて多くのチーム合宿があり、また、充実し
たスポーツ施設と市民の高いスポーツ熱の
もと、誰もが気軽にスポーツを楽しめる。スポー
ツ振興に取り組んでいる中、武道関係
8種の団体の熱心な活動と熱意により
武道館が建設された。

建設が成功した要因には、恵まれた土地環
境、財源の有効活用、関係団体（北見市
武道館道振興協議会）の専門的見地によ
る提言の関与等である。

本市の現状は、周辺環境、施設老
朽化も劣悪であり、関係からも一刻
も早い武道館の建設が望まれている。

- ◆視 察 日：平成26年8月22日（金）
- ◆視 察 先：北海道北見市
- ◆調査項目：武道館建設事業について

本市に於ては、スポーツ関係施設が
県庁、市庁を含め施設が市内で分
散しており、土地状況を基に案するときに
総合的なスポーツ施設の集約は相当
厳しい。

本市では、現在、工機焼却場、市庁舎建設
の大型事業の計画があり財政的に厳しい
ものがあるが、是非、一刻も早く総合
的武道館の建設と望みにいっ所
である。

平成27年3月20日

自由民主党会派（和）

代表 古嶋 津義 様

八代市議会自由民主党会派
管外視察

復命書

視察期日 平成27年2月18日（水）～2月20日（金）

視 察 先 大東市・東京都・小牧市

参加者名

団 長

古嶋

津義

上村

哲三

中村

和美



調査事項（大東市）

○指定管理者導入後の市立図書館の運営状況について

1 事業者選定の経緯

- 1) 平成 16 年度からスタートした行財政改革プランにおいて、職員数の計画的縮小と、積極的な民間活力の導入方針を策定
- 2) 図書館においては、平成 14 年に運営に民間活力の導入も視野に入れた「大東市図書環境整備・基本構想」を作成。（西部・東部図書館の設立を含んだ 10 年計画）
- 3) 当初、新設の西部図書館の建設・運営管理は、P F I 方式を検討していたが、規模が小さいため企業効果があまり見込めなかったため断念し、建設は P F I に近い手法として設計・施工一括発注方式により建設
- 4) 折しも、建設事業者の選定最中に、地方自治法の一部改正により指定管理者制度が創設されたため導入を検討

○職員削減を進めていた ○司書職員採用計画がなかった ○館長も指定管理者に任せることが可能 等の理由から図書館運営の指定管理者導入へ

2 指定管理者導入の効果

○人件費の削減 ○開館時間の延長 ○休館日の削減 ○公募時

に提案された新サービスの実施や随時新しい事業・イベントの提案があり、民間ならではのノウハウを生かした図書館サービスの拡充がされている

3 市民からの評価

○導入前は、個人情報漏洩の危惧や無料原則の崩壊等の不安から市直営を求める声があったが、導入後は、教育委員会が責任を持って事業者を監督する方針を伝えることにより、苦情・反対は無く、利用者にも好評である。

4 今後の課題

市と指定管理者が力を合わせ、スマートフォンなど、新しい端末の普及に伴う世の中の活字離れ、情報システムの急速な進化など、目まぐるしい社会の情報化に対応した公立図書館の在り方を確立し行くことがあげられる。

調査事項（東京都）

○ これからの墓地行政のあり方について

1 施設の概要

○小平霊園（東京都建設局公財）西武新宿線の小平駅から線路沿いにケヤキなみきの表参道が正門まで続き、荘重な趣の伝統的な墓地と緑の芝に覆われた明るい墓地、新しい形式の合葬式墓地等が広々とした墓域に配置され周囲を樹林帯が囲む。

総面積の約半分が墓所で、樹林・草地・並木道が広がり、北側には武蔵野の面影を留める雑木林がある。

開設は昭和 23 年 5 月 1 日、面積 653,545 m²

墓所の規模 面積 834 m² 埋葬予定数 10700 体

設置施設 墓所、献花台、参拝広場等

2 樹林墓地（合葬式）の考え方及び利用状況

都は、平成 20 年 2 月の東京都公園審議会答申「都立霊園における新たな墓所の供給と管理について」を受け、既存の都立霊園を活用しながら墓地に対する都民ニーズの多様化にこたえるため、新たな形式である「樹林墓地」の整備を行ってきた。

樹林墓地は、「死後は安らかに自然に還りたい」と言う多くの都民の思いに応えられる様、樹林の下に共同埋蔵施設を設け、直接土に触

れる形で遺骨を埋蔵する。

○墓所内の樹木

コブシ、ヤマボウシ、ナツツバキ、ネムノキ、イロハモミジ

○募集予定数

500 体：遺骨 1 体 134000 円、粉状遺骨 1 体 44000 円

一般墓所と異なり、毎年の管理料はかからない。

3 住民からの要望・評価

特になし

4 今後の課題

○急激な高齢化に対応する墓所の容量

○家族関係の変化による無縁墓

○墓所利用の制限事項・費用負担

調査事項（小牧市）

○ 新庁舎建設について

1 新庁舎建設に至る経緯

昭和 63 年の南庁舎（現東庁舎）建設時には第 2 期工事も含めた計画で、コンペを実施し、第 1 期工事として南庁舎を建設したが第 2 期工事は未定であった。

平成 8 年度に、旧本庁舎の耐震診断を実施、結果、耐震性に問題ありの判定から、平成 13 年頃から旧本庁舎建て替えの議論が本格的に始まり、建て替えの是非から建設位置の選定も含めた議論が続き、平成 16 年に庁舎建設委員長から建設位置に関する報告書が議長に提出され定例会で報告され 11 月新庁舎建設位置表明がなされた。

候補地は複数あったが、決定の大きな要因は用地買収の必要が無かったことである。

○平成 18 年 新庁舎基本構想（案）パブリックコメントの実施

新庁舎基本構想策定

○平成 20 年 基本設計プロポーザル実施

基本設計

○平成 21 年 新庁舎基本設計（案）パブリックコメントの実施

実施設計

○平成 22 年 工事着手

○平成 24 年 竣工

○平成 25～26 年度 旧本庁舎解体工事

2 新庁舎建設地の選定状況

平成 13 年度～16 年度 庁舎建設場所の検討

平成 14 年 市議会に庁舎建設検討委員会設置・庁舎建設市民懇話会設置

平成 15 年 市議会に庁舎建設委員会設置

平成 16 年 市議会より「庁舎の位置」について報告

新庁舎建設位置表明

※小牧駅周辺を含む複数の候補地から改めて用地買収の必要が無いという理由で現地に決定。

3 新庁舎完成後の効果・市民からの評価

1 階市民窓口フロアーでは、番号表示呼び出しサービスの導入やフロアーマネージャーの配置により円滑な案内が出来ているが、発券機の該当ボタンの押し違いによるトラブルがまれに発生。

特に市民からの反応や評価は聞いていない。

4 今後の課題

1 階の執務エリアの狭隘化が問題となっている。

平成 26 年度の行政組織改正以後、ハイカウンターとローカウンターの位置関係や窓口の数の追加など各課かいから要望があっている。

空間が広く空調の調整が難しいため、空調運転の運用方法や運用に係る管理規定の見直しが必要。

窓の面積が少なく風通し悪し。

自由民主党会派（礎・絆・和）行政視察所見

委員名【古嶋津義】

◆視察日：平成27年2月18日（水）

◆視察先：大阪府大東市

◆調査項目：指定管理者導入後の市立図書館の運営状況について

平成14年、図書館運営に民間活力の導入も視野に入れた大東市図書館環境整備基本構想を作成。折しも、地方自治法の一部改正により指定管理者制度が創設されたため導入。選定方法は教育長や社会教育関係者等で構成される選定審査委員会による応募書類及びヒアリングによる審査後、候補者選定を行い、議会での議決を経て、指定管理者に指定。導入後の効果としては、人件費の削減、開館時間の延長や休館日の削減等、公募時に提案されたサービスの実施や、随時新しい事業、イベントの提案があり、民間ならではのノウハウを生かした図書館サービスの拡充がなされていて、市民（利用者）からは好評である。今後の課題としては、スマートフォンなど新しい端末の普及による活字離れ、情報システムの進化など、情報化社会への対応が課題である。

◆視察日：平成27年2月19日（木）

◆視察先：東京都（都立小平霊園）

◆調査項目：これからの墓地行政のあり方について

小平霊園施設は、一般埋蔵、芝生埋蔵、小型芝生埋蔵、
長期収蔵（ロッカー形式）、立体埋蔵^{施設}（お墓を継ぐ人のいない方の申し込み
も可）その他に樹林型、樹林型合葬埋蔵施設もあり、都民で
あれば申し込む事ができる。それぞれの施設ごとに使用料や管理料が
定めてある。特にお墓を継ぐ人のいない方が申し込む、樹林型
合葬墓地は、樹林の下に多くの遺骨を共同で、直接土に触
れる（自然に還る）形で埋蔵。使用料（管理料不要）は遺骨1体
131,000円。粉状遺骨1体43,000円。毎年管理事務所による献花式が
行われている。都立初の樹林墓地として、500体の募集に対して16倍の
応募があったことから、都民からの要望、評価も高い。今後の課題は
超高齢化、人口減少社会の到来、家族形態の変化や生き方の多様化等、
長寿を楽しむ社会に向けて、安心して生涯を終えることができる視点
からも、今後 散骨や自然葬などの葬送に対する関係法の整備。
又、無縁墓地への対応等、墓地の維持管理が課題である。

◆視 察 日：平成27年2月20日（金）

◆視 察 先：愛知県小牧市

◆調査項目：新庁舎建設について

本庁舎の老朽化や耐震性、市民窓口の手狭さなどから、効果的な市民サービスを提供するために、市のシンボル小牧山との調和を図りながら、平成22年7月に南庁舎西側に建設。建設にあたり庁舎建設場所の検討、市議会に庁舎建設検討委員会の設置、基本設計の前段階において、市民の意見を庁舎建設に反映させるため庁舎建設市民懇話会の設置等。又、庁舎内の事務系部署、技術系部署、窓口業務のある部署の職員で構成された庁内検討会で細部にかたり、検討を重ねられ実施設計に反映されている。新庁舎完成後は、番号表示呼出しサービスの導入やフロアマネジャーの配置による円滑な案内ができています。課題としては1階の執務エリアの狭小化が問題となっている。又窓が少なく風通しが悪い。空間も広く空調が難しいため、空調運転の運用方法等の見直しが必要。

委員名【上村 哲三】

◆視察日：平成27年2月18日（水）

◆視察先：大阪府大東市

◆調査項目：指定管理者導入後の市立図書館の運営状況について

大東市図書館の指定管理者運営は旨、良効な運営がなされていた。心配されたり個人情報漏洩に及ぶとしても年1回委託会社の方で厳格な調査が行なわれており、今後の課題としても目まぐるしく変化する情報化社会に対応する体制をもつていた。

大東市の図書館の指定管理者も丁寧ではあるが、大東市と同様の大手の（株）図書館流通が請けおっていることで、安心センター

と共に、今後の市立図書館の変化に期待したい。

◆視察日：平成27年2月19日（木）

◆視察先：東京都（都立小平霊園）

◆調査項目：これからの墓地行政のあり方について

先祖を敬う心や家族関係のあり方とその有り様は変化して来っており、墓地を巡っては様々な問題が、今後、急速に進んでいくものと想像される。

顕在化する無縁墓地への対応、又、社会状況の変化による埋蔵方法の検討等、時代に即した法や条例の整備を行政がサポート（公営管理）していく必要性を強く感じた。

◆視 察 日：平成27年2月20日（金）

◆視 察 先：愛知県小牧市

◆調査項目：新庁舎建設について

入江市では老朽化・耐震不足の旧庁舎から
新庁舎の建設が検討される中、総額、
240億円の費用を必要とする「エミール
施設」の建設が進行している。

財政の合理的運用視点からでも合併特
例債の充当期限内の竣工を目指し
計画がされるのは順等なものと評価される。
又、小牧市同様、用地買収の必要がない
現役所敷地内に建設地が決定し
たこと（各地域審議会への諮問を経て）も
合理性が担保されている。

今後は、先述地事例を参考に合理的
な建設を望む。

自由民主党会派（礎・絆・和）行政視察所見

委員名【 中村 和 美 】

◆視 察 日：平成27年2月18日（水）

◆視 察 先：大阪府大東市

◆調査項目：指定管理者導入後の市立図書館の運営状況について

図書館運営に対して

H16年度より行財政改革プランにおいて、職員数の計画的減少と民間活力の導入を策定。教育委員会や指定管理部長、社会教育関係にて、選定審査委員会設置、人件費の削減や、開館時間、休館日が市民より不満の声があった。その後、市内三館ある図書館の一館をH17年11月より指定管理者へ依託。人件費の削減や、開館時間の延長、休館日、コピーのサービス等市民が求めていた事が指定管理者に移行したら不満がなくなった。

指定管理者の語が持ち上がった頃は、市民サクルより個人情報漏洩やサービスの低下、借り時に有料になるのではと、市民の心配の声があったが、当時の教育委員会が責任を持つとの事で、市民も納得したとの事。今では、年々、図書館を利用する市民が増えているとの事でした。

今後の課題としては、市と指定管理者にて、スマートフォン等、高機能情報システムの急速な変化などに対応する新しい情報システムの開発が課題との事。八代市立図書館の指定管理者も同じARC図書館流通センターとコラボにて、本年4月より実施される。日本全国に実績のある会社で、運営には安心出来るのではないだろうか。

- ◆視察日：平成27年2月19日（木）
- ◆視察先：東京都（都立小平霊園）
- ◆調査項目：これからの墓地行政のあり方について

小平駅より300メートル程歩いた所に都立小平霊園があります。その途中には、花屋、石碑屋が店をうつめています。花の値段も、一束1500円〜1800円でした。

小平霊園は、総面積65.3ヘクタールあり、墳墓や樹林型合葬埋蔵施設や樹木型合葬埋蔵施設、合葬埋蔵施設がありました。今回の視察は、樹木葬と樹林葬と合同墓地を見学しました。現代は、家族形態や墓地意識の変化など、多様な墓地ニーズに対応する為に考えられた埋葬方法との事。樹木葬とは、樹木の周辺に、火葬後30年間、地中1メートル位を絹袋に入れて埋める埋葬式方法。樹林葬とは、共同埋蔵施設で地上には木を植える芝生を敷き、地中に直径1メートル、深さ1.5メートル程の穴に27基の納骨が出来る方法である。計画では、埋蔵予定数10700体との事。献花台も一ヶ所でお互にゆずりあってお参りするとの事でした。合同埋蔵施設は、土が固っており、その中に柩があり骨壺状態で20年間埋蔵しその後絹袋に移し替える共同埋蔵するとの事。

65ヘクタールの敷地には、松、梅、梅等、樹木があり、広い道が整備し都会のオアシス的感覚で墓地とは、思えない環境でした。

熊本県においても、年々墓地問題が多くなっている。

無縁墓地や、管理不足が現実化しているのだ。

しっかり、県市は考えなければと思った。

◆視察日：平成27年2月20日（金）

◆視察先：愛知県小牧市

◆調査項目：新庁舎建設について

八代市も、本庁舎建設が本格的に動き出した。

市民が使いやすく、親しみのある庁舎を作る為に小牧
庁舎を見学に行く。小牧市庁舎は、昭和49年に
建設され、平成8年、庁舎耐震診断の実施、

耐震性に問題ありと判定された後に、113～16年

庁舎建設場所や検討委員会、市民懇話会を設置

庁舎建設懇話会は、構成員20名にて、115年3月迄

8回開催されたとの事である。新庁舎基本構想から

新庁舎基本設計迄、約三年かかり、検討したとの事。

結果として、地下1階、地上6階、建築面積77050㎡

工事費約50億9082万円にて、H24年7月30日完成

三階には屋上緑化（芝生）があり、屋上には太陽光発電が

あり、屋上の直接日射量を抑え、庁舎内への電気を補足

している。窓も大きく、自然採光も考えてあった。

庁舎も明るく、廊下も広く、特に、窓口の机が低くて

お年寄りには、喜ばれていると思った。地下は、一般

駐車場があり50台が利用出来る、建物全体を支える

50本の柱は免震構造となっており、地震の揺れを吉に

減らす事が出来るとの事、八代市もこれから、本格的に

庁舎建設が始まるのである。安全、安心、使いやすい、

市民に親しまれる庁舎作りをやって欲しいと思う。